

この世の人生を全うした後は、今度は仏さまとしての世界が広がります。お浄土という世界があり、そして、阿弥陀さまによるすくいはたらしにより、その世界に生まれていける私であることには、有り難さとお恩を感じずにはいられません。

卒園に際して「お別れが寂しいな」と言っていた息子に、また小学校で会えることを伝えた後、こんなことも言っていました。

「はやく小学校のお兄さんになれるよう頑張る！」

「なにも頑張らなくても時期が来れば小学生になれるのに……」と心の中で思いましたが、待つてくれている人がいる世界に行くまでに、しっかりと今できることを全うする心意気に、「自分の生き方はどうなのか？」と問われたような気がしました。

阿弥陀さまのすくいによって、お浄土に生まれさせていただく聞かせていただきますが、すくいに對して単に甘えるだけではなく、安心できるいのちをいただいたからこそ、少しでもそれになつた生き方をしていきたいと思うことでした。

(本願寺新報より)

◆鐘楼屋根瓦が綺麗に！

鐘楼の瓦葺替え工事が完了しました。鐘楼瓦葺替え費用は、門信徒の皆様のご永代経懇志・護寺懇志による積立金を使用させて頂きました。お力添え有難うございます。

瓦葺替えを四月より始めて六月末に無事完了後、門信徒の皆様のご奉仕作業により、柱・梁など洗い、防腐剤塗料塗りをいたしました。暑い日の中奉仕作業をして頂いた皆さま、感謝・感謝です有難うございます。



(復元された鬼瓦)



(防腐剤塗り作業)

坊守のひびりん



コロナという恐ろしい病気が終息しつつあるようで、それまでの日常生活にもどりつつある。お寺においても、永代経のお齋が復活し、落語会や太鼓の演奏なども復活して、たくさんの人達に来ていただき、楽しそうに笑いながら話していたように思える。人間ってやっぱり、おもしろいと思う。本当によかった。

何もかもが止まってしまった三年間、私の年齢的にも貴重な三年間だった。かんばつていろいろ、挑戦しなければと思う。行きたい所もやりたい事もいっぱいある。

住職の了承を得て、周りの人を巻き込んで色々やってみようと思う。

次は何があるかわからないって事が、よくわかった三年間だったから。

